

楽園プロジェクト

2026
6

Craftsman of the month: Yuto Otomo

Team
Green



農作業を通じて育つ自信とつながり



当事業所では、地域の複数の農家の皆さまにご協力いただき、年間を通してさまざまな農作業に取り組んでいます。ぶどう棚のワイヤー張りや草刈り、トマト・きゅうり・かぼちの収穫、椎茸やキクラゲの栽培管理、さつまいもの定植・収穫など、作業内容は季節によって多岐にわたります。

利用者の皆さんからは、「椎茸の収穫は楽しい」「将来は自分の畑を持ちたいので勉強になる」「農家さんに頼られているのが嬉しい」といった声が聞かれます。暑さや寒さの厳しい中での作業もありますが、「集中していると気持ちがいい」「体を動かす仕事が自分に合っている」と、やりがいを感じながら取り組んでいます。

また、農作業を続ける中で、挨拶が苦手だった方が自然と声を掛けられるようになったり、作業の技術や体力が向上したりと、多くの成長が見られます。農家の皆さまからも「信頼して任せられる」「真面目に取り組んでくれて助かる」と温かい言葉をいただいています。

農業は作物を育てるだけでなく、人の成長や地域とのつながりも育んでくれます。これからも農福連携を通じて、一人ひとりの可能性を広げる取り組みを続けていきます。

農

福

連

携

農福 JAS 認証商品を販売しています！

当事業所では、農業と福祉が連携して生産されたことを示す「農福 JAS」認証商品の栽培・販売に取り組んでいます。農福 JAS は、障がいのある方が農業分野で活躍していることを国が認証する制度で、この認証を取得しているのは全国でもまだ少なく、広大な北海道内でもわずか 2 箇所のみ。私たち「楽園プロジェクト」はその貴重な一つとして認定されています。

販売商品は季節によって変わり、現在は販売休止期間ですが、しいたけ・きくらげ・さつまいもを生産し、「あびら道の駅 D51 ステーション」や「いんくる食堂」で販売しています。今後はきくらげの販売再開を予定しています。安心・安全な農産物とともに、農福連携の取り組みをぜひ応援してください。

農福 JAS とは？

「農福 JAS」とは、障がいのある方が生産工程に深く関わって作った農産物や加工品であることを、国が証明する安心のマークです。単なるおいしさだけでなく、社会貢献や丁寧な仕事という「特別な価値」が認められた証でもあります。



今月の楽園びと

※50音順で
ご紹介しす

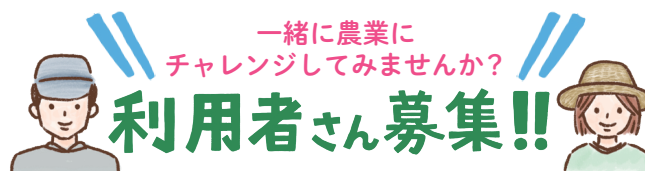
相原 由紀推（鍼灸師）

鍼灸師兼支援員として、職員や利用者の心と体を整えるお手伝いをしています。楽園プロジェクトでは、福利厚生として鍼灸をご利用いただける環境づくりに取り組んでいます。

誰もが安心して立ち止まり、また笑顔で歩き出せるようなサポートを心がけています。



Portrait: Yuki Hanazawa



地域の農家さんと連携し、野菜の栽培や収穫、椎茸・キクラゲづくりなどの農作業に取り組んでいます。夏は暑く、冬は寒い中での作業もありますが、その分「収穫できた喜び」や「農家さんに頼られる嬉しさ」を実感できます。実際に利用者さんからは、「自信がついた」「体力がついた」「働くことが楽しくなった」という声も聞かれています。また、工賃は頑張った分だけ反映される仕組みのため、目標を持って取り組むことができます。

農作業を通じて、自分の可能性に挑戦してみませんか？

見学・体験は随時受付中です。

公式LINEよりお気軽に
お問い合わせください

